

車が通ったあとに残る輪の跡という意味から、「先人たちが築いてきたものを大切にしながら、未来へとつないでいく」という思いを込めてつけました。

発行：総合支援センターかがみの 社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 〒780-0028 高知県南国市陣山531-1 TEL088-855-3717 FAX088-855-6181
発行責任者：福永康夫(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会) 編集責任者：下元義孝(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会) 印刷：社会福祉法人 すずめ共同作業所



沢井 菊美さんの作品

Kikumi Sawai's Artworks



きのこがり(2013年入賞)



よかったね(2012年入賞)



ねこの家



よさこいまつり ユイユイ祭り



お月見

Art 芸術は小さな部屋から

送迎車で迎えに行くと、四つ切り画用紙3枚を輪ゴムでまいてさっと渡してくる。開いて見ると、カワイイようでエキゾチック、なぜか郷愁をそそる独創世界が広がってくる絵が描かれています。

ウィッシュかがみの玄関や階段に、その絵が飾られています。

作者の名前は沢井菊美さん。昭和9年生まれの79歳。沢井さんは、年に2回宇佐町で漁師を営む実家に帰省してカツオを食べることを楽しみにし、大の巨人ファンで今年は特に機嫌が良かったです。

絵を描き始めたのは、昭和48年40歳からで、グループ

ホームの自室で時間を見つけては一人で描いています。写真や図鑑、絵本などを見ながら鉛筆で下描きをして、マーカーペンや色鉛筆を使用して絵が描かれていきます。デッサンは、長年絵を描きながら独自の「沢井さんの絵」としてできあがっているようです。

高知県障害者美術展「スピリットアート」では毎年受賞し、評価を受けています。

アート展に関係なく、日々の中で創作活動を行っていますが、スピリットアート入賞者が発表された朝は、「(新聞に) 載っちゃった。世話人さんが(新聞を) 切って見せて

くれた。」と満面の笑みを見せて報告をしてくれます。

多くの方々に見てもらい、声をかけられることが何より嬉しそうで、絵を描き続ける原動力になっているようです。

弟さんから「10歳頃より施設を利用し、障害はありますが手先が器用で、多くの仕事をしてこられたようです。絵画という表現の機会ができて幸せや。」との話がありました。家族から離れた生活がとても長くなっていますが、明るく元気な声で周りに声をかけ、漁師の様にしゃんとした性格からか寂しさを表に出さないようです。

「私も結婚したかった。好きな人もいたよ。」と目を細めて話してくれる。沢井さん自身、寂しさを紛らわすための過ごし方として絵画の世界へと誘われ、カワイイようでエキゾチック、郷愁を感じさせる不思議な世界の作風は、遠い記憶を思い起こしながら描いていることもあるのでしょう。



休日にグループホームの自室で、ペン先に視点を合わせている姿が思い浮かぶのは私だけでしょうか。

高知県立美術館で行われた授賞式では、凛として、そして幸せそうでした。

グループホームで一緒に暮らしている仲間が家族のようで、時間を持て余している人を見つけると、下絵を描いて「これ塗りや。」と描いた絵を渡し、「頑張って描いたら賞がもらえる。」とエールを送っている姿はほほえましく感じられます。

もうすぐ80歳を迎えますが、絵画の展覧会に出かけると「面白いね〜」「こんな描き方もあるがやね」と瑞々しい感性は常に新しいものを取り入れようとし、創作意欲が沸いてくる様子。沢井さん自身

が歩んできた前向きな生き方そのものに感じます。

面白いと感じた人がいて、支える人がいて、沢井さんの絵は広まり、藁工ミュージアム(高知市)にも出展する機会ができました。

アトリエを持たず、画材や道具は商店街で買い揃え、絵を見た人の心を魅了する沢井菊美という作家に会いに来ていただけたら嬉しく思います。

多機能事業所ウィッシュかがみの
野村 昭博

第17回スピリットアート(高知県障害者美術展)入賞者

絵画部門：清水 洋、依光椋子、井浦美琴、沢井菊美、中尾幸恵、近森敏子、安藤充洋、田内直也、尾原幸恵、筒井ゆり、安井優子

工芸部門：尾原幸恵、田内直也、安井優子
書道部門：公文大彰、吉村美花、田内直也

立体作品等部門：かがみの育成園アート班

Message

黒沢 真也さん 地域で支える

地域で暮らす障害のある方を24時間365日支える拠点であるライフサポートかがみのサービス管理責任者として働かれている黒沢真也さんにお聞きしました。

Q どのような仕事をされているのですか？

A 障害者が地域の中でサポートを受けながら暮らす方法のひとつとしてグループホームやケアホーム(以後「ホーム」と記述)に入居されることが多いです。私たちライフサポートかがみのは、それらのホームに入居されている人を支えています。

ホームは4~7人の共同生活を行っています。通常は身の回りの支援を行う世話人と私たち支援

員がチームとなって健康管理や食事、入浴、休日の過ごし方など生活全般にわたる様々な事柄を支えています。

もちろん自分でできることを増やすことも大切です、地域の中で暮らすためにヘルパーなど外部の支援者にも協力してもらえようにコーディネートすることも仕事になっています。

Q どんな取り組みをおこなっていますか？

A ライフサポートかがみのは、約50名の入居者への支援を行っています。

入所施設からホームへと移行し、少しずつ年齢を重ねられた方が増え、医療機関との連携を含め

健康管理に力を入れています。

また、休日や夕方の過ごし方も一人ひとり様々で、十分にできているとは言えませんが気持ちは「本人に寄り添う」ということを大切に取り組んでいます。

Q サポートする中で一番心がけていることはなんですか？

A 入居者さん一人ひとり違うということを忘れてしまいそうになることがあり、生活を支える一人として、自分の価値観を押し付けられないように心がけています。

つつい相手立場を考えずに自分の生活観を押しつけてしまうことがあり、反省の日々です。

「できる」「できない」ではなく、人としての尊厳を踏みにじることはし



黒沢 真也さん

てはいけないと思います。しかし、知らず知らずのうちに配慮することが遠のき、心を傷つけるような言動や接し方をしてしまうことがあります。ホームの入居者さんは、自分の親より年配の方も多く、人生の先輩である方々への言葉遣いや接し方には、特に配慮しなければなら

ないと思っています。また、ホームは共同生活であるため、周りの目を気にしなければな

らないこともあります。自分の部屋では、ゆっくり一人でくつろいでもらえるようにと心がけています。

Q その中で苦勞されていること喜びを感じることの両面について教えてください。

A 苦勞をしているということは感じたことはありません。

入居者さんが何を訴えておられ

Work & Art

スポーツ、就労、芸術のトリプルプレーヤー

今回、登場いただくのは、ライフサポート「大津」のグループホームで生活されている吉川明広さん31歳です。スポーツ、就労、芸術と活躍される好青年、順を追ってご紹介します。

まずはスポーツの分野。フライングディスク、特にディスタンスの部門では高知県1,2を争う実力者です。過去には全国障害者スポーツ大会に出場しています。

日ごろからフライングディスクに親しんでいるわけではないのですが、スポーツ大会本番でその実力を遺憾無く発揮されます。

がっちりとした腕から放たれた



吉川 明広さん

ディスクが力強く空を切る様を見ると、天性の「フライングディスクマン」と称したくなります。

二つ目は、就労について。18歳で鶏肉加工の事業所で働き始めました。今年で13年になりますが、ライン作業の中で他の人に遅れることなく、終日鶏肉の加工に携わります。

この機関紙が発行される12月は、クリスマスや正月を間近にして、忙しい「超」が二つも三つも付くほどの繁忙期です。残業あり、公休日が変わったりと大変な時期で、グループホームの世話人さんも、吉川さんが風邪をひかないように、健康管理や衣類の選択に気を遣います。

この記事を読んでいる皆さん、食卓にフライドチキンが出てきたら、黙々と作業に向かう吉川さんを思い浮かべてください。今日もチキンが食べられるのは吉川さんのおかげです!ちょっと言い過ぎですかね。

ベテランの吉川さんですが、時

には職場で問題の起こることもあります。そんな時には障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」が安心して働き続けられるよう解決に向けて支援に入ります。

三つ目は、芸術の分野です。昨年、高知市障害者地域活動支援センター「アートセンター画楽」に通い始め、絵画創作のアート活動に取り組んでいます。アクリル絵の具や色鉛筆を駆使して独自の感覚で描く絵はもちろんのこと、一点一点の作品に付ける題名にも驚かされます。

「画楽」での創作活動が定着し、作品を増やし続けています。「画楽」の後押しと、その作風がかわれて、今年の5月には障害のある人たちの作品を社会に発信する「エイブルアート・カンパニー」のカンパニーアーティスト(登録作家)となりました。

インターネットのサイト上に掲示された作品が、企業の目に止まり、一点は医療関係企業の2014年カレンダーの12月を飾り、もう一点がスマー



目立家(めだちや)

トフォンのカバーに商品化されています。ちなみにスマホカバーの原作名は「目立家」(めだちや)です。このサイトにアクセスしてみてください。吉川さんの作品や彼のプロフィールが掲載されています。<http://ableartcom.jp/imglist.php?ano=110>

「アートセンター画楽」での活動はライフサポート「大津」の紹介で見学に行き、正式利用となり創作を始めました。

それまでは、充実した公休日の過ごし方が見つからずいました。今は打ち込めることが見つか、日曜日を楽しみにして「画楽」での活動が定着しています。

サイトの本人プロフィールに掲載されている顔つきをみれば、吉川さんの創作熱意を感じていただけるでしょう。

スポーツ、就労、芸術のトリプルプレーヤーの吉川さん、これからも活躍を期待しています。さて次の作品にはどんな題名が付くのでしょうか?楽しみです。

アートセンター画楽
<http://www.garaku-ch.org/>
エイブルアートカンパニー
<http://www.ableartcom.jp/top.php>

就業・生活支援センター「ゆうあい」
山本 和久

るのか?今必要な支援は何か?分からなくなる時に不安を感じることがあります。「その人にとって…」と考れば考えるほど、出口が見えなくなり、自分の無力さを感じます。

喜びを感じる時は、入居者さんが満面の笑みで喜ばれた顔をされた時と「ありがとう。」と言っていた時です。

特に夜間、ホームを訪問して帰る時に「ありがとう。気をつけて帰るよ。」と言われた時は、本当に心温まります。また地域の行事や旅行などで大変喜ばれた時に、少し良い仕事できたのかなあと実感することがあります。

Q 最後に思うことがあれば一言お聞かせ下さい。

A 最近支援者としてのあり方や考えを見直さなければならない出来事が立て続けにありました。本当に

本人さん達と向き合っているのか?自分なりにやっているつもり、できているつもりだったのですが、振返るとできていなかったことに気づき、本当にショックを受け、正直落ち込んでしまうことが多くありました。

そんな時でも生活に「待った」はなく、こんな私でも頼りにしてくれている入居者さんがいてくれます。改めて人とのふれあいの中で学ばせていただき、感動し、勇気もらい今の仕事ができていると感じました。

現在お一人おひとりがそれぞれの思いを抱いて生活をされています。65歳以上の占める割合は全体の33%を超え、持病や新たな病気の発症などにより、以前のように自由に身体が動かなくなる方も増えてきています。そんな中で自分たちに何ができるのか?どうすれば入居者さんやご家族に喜んで頂き、安心した生活を送っていただける

のかを、その場しのぎの関わりでなく、これから何年何十年と次に繋がっていく支援ができるように、正面から向き合い考えていきたいと

奥様と子供さんにお聞きしました

Q 家ではどのようなご主人ですか?

A 共働きなので家事、子育てと主夫業も良くやってくれ、秋田育ちの気質もあるのか気長で穏やか、そしてマイペースです。

Q ご主人の仕事をどのように思われますか?

A 一人ひとりの要望に応じて、生活全般を支援することは役割も大きく大変だと思います。でもその喜びも大きい仕事だと思うので、やりがいを持って取り組める仕事だと思っています。

Q 今後ご主人への応援メッセージを下さい。

A 今回改めて子供達と「お父さんの仕事」について話をしました。子供達からは「お父さんの職場はお友達がいっぱいいて楽しそう」が二人の子供たちの印象です。そんな風にごく自然に子供たちの目に写っていることはとても嬉しいです。実際は大変なことも沢山あると

と思いますが、家族の為、これからの障害福祉の為に頑張って下さい。

二人の娘さんより

○お父さんは仕事場に友達がたくさんいていいなと思いました。
○おとうさんのお仕事はたのしそうです。がんばって。

生活介護事業所 パワーズ山田 松本 尚美



People
高芝 和明さん
地域活動支援センター
香美のひとコマ

「おはようございます」爽やかな笑顔と気持ちの良い挨拶で地域活動支援センター香美にやってくる高芝和明さん。地域活動支援センターが開始した平成18年から続けて利用されている一期生です。

「作業頑張りたいです。月曜日と木曜日が作業やけど、月曜日はしんどいき、木曜日にやります」高芝さんは、週末は家の仕事や手伝いをしているので、月曜日は疲れてしまうようです。そんな自分の体調をよく理解しており、火～金曜日に利用しています。以前はもっと利用回数が少なかったようですが、今年度になり利用が安定してきました。「ここに慣れた。ここに来たい。」その思いが、安定につながっているようです。

ある火曜日、お休みすることが

ありました。話を聞くと、いつも自販機でお茶を買ってから来ているところ、五千円札しかなく自販機で買えなかったからとのこと。また、以前店舗でお茶を購入手とした時に、「それしか買わんの?」と言われたことが気になり、自販機で買うようになったとのことでした。色んな事にひっかかり、つまずきやすいことが改めて分かりました。でも、この相談をしたことで職員からアドバイスをもらい、お茶を買う時でも店舗を利用してもいいことが分かり、前向きになれたようです。

現在、ロールプレイングという方法を使って、自分の気持ちを表現する練習をしています。

「話の練習が楽しい。好き。」職員の夏期研修期間中、ロールプレイングが2回飛んでしまった時には、「話がしたいです。」と自分から面談を希望し、自分の気持ちを

話してくれました。混乱やいら立ちで不安定な気持ちになりそうな時には、自分の気持ちを伝え、クールダウン(気持ちを落ち着かせる)を要求するなど問題解決のための力も出てきました。

「トランプが好き。」「将棋がやりたい。」「誘ってくれる。みんなでやるのが楽しい。」「塗り絵をしたい。みんなで楽しくできる。」仲間と色々な活動を体験し、それがとても楽しくて、やる気にもつながっているようです。クッキングでは、包丁で食材を切ることに挑戦。「新しく出来るが増えてきたね!!」とスタッフの言葉に照れた笑顔。経験の幅を広げながら、自信をつけているようです。家庭でも「庭の草引き、靴洗い、帽子洗い、皿洗い、洗濯をしゅう。」と色んな事を頑張っています。「きれいになると気持ちがいい。」そうです。

支援センターは16時でおしまいです。16時が近づくと荷物を準備し、「もうちょっとおりたいけど、4時までのルールやき、4時5分前になったき、帰ります。また明日来ます」と挨拶。名残惜しいけど、ルールを守らなければ…自分の気持ちと折り合いをつけ、明日を楽しみに帰宅していきます。閉まるブラインドの間から、最後まで手を振る姿がとてもしらしくもあります。

仲間と活動を通して「好き!」「楽しい!」という行動の原動力になる気持ちを大きくしている高芝さん。安心できる環境の中で自信と意欲を育て、次のステップへと進んでいく彼のことをこれからも応援していきます。

地域活動支援センター香美 澤本 麻美



高芝 和明さん



ミーティング風景



ケーキ作り



クッキング

Report

祭りだわっしょい!!

「いらっしゃいませ!」「焼きそばいかがですか」「もうすぐイベントが始まりますよ」そんな賑やかな声が飛び交っていたのは、11月に開催されたウィッシュかがみのと香南くろしお園の祭りの風景です。それぞれ、多くの地域の方々やボランティアにも来ていただいて盛況を博しました。

香南くろしお園の「ふれあいくろしお祭り」は今年で18回目。当日はたくさんのお客さんで駐車場は満杯、会場はまっすぐ歩けない状態です。販売品も品揃えが多



ウィッシュ祭りの様子

く、生花や野菜即売はもちろん協賛してくれた特別支援学校や多くの作業所さんも多数出店。部屋一面、フリーマーケット用の品物の多さにも驚きでした。後援会や地元ケーブルテレビのお力添えもあり、たくさんの方の協力をいただいたそうです。今年のコンセプトは「地域の子供たち」。遊びに来てくれる地域の方、特に子供さんに来てもらいたい。ちびっこコーナーやスタンプラリーを設けるなど、子供たちの楽しめるイベントもたくさん準備して賑わっていました。

一方のウィッシュ祭りは今年で3回目を迎えました。最初は試行錯誤で始めたお祭りでしたが、回を重ねるにつれていろいろな方に来て頂くようになりました。「今年も来たよ。」そう言ってビールで乾杯しているのは近所の方々でし

うか。いろんな商品に混ざって、今年から新しく作ったカレンダーも販売。挿絵を描いた本人自ら率先してお客さんを呼びこみ「即日完売」、後は予約受付となる嬉しい悲鳴も上がっていました。

今年のテーマは「みんなで参観日」。施設を利用する関係者だけでなく、地域の方や多くの人に自分達を知ってもらいたい、利用者さんの「顔」が見えるお祭りになりたいという想いで準備を進めました。高知県立工科大学や高知福祉専門学校の学生さんもボランティアとして参加し、一緒に楽しんでもらっています。

これまで地域の運動会や各イベント、火の用心の夜回りなど、地域住民の一人として活動し、ご近所との親睦に努めてきたウィッシュかがみの。そんな積み重ね



香南くろしお祭りの様子↑↓

が、少しずつ実を結んできている様子の伝わるお祭りとなりました。

くろしお園、ウィッシュ、それぞれ場所は違えども、その地域で障がい者施設という垣根を越えて地元で根付こうと奮闘している姿があります。お祭りというイベントは、そんな気持ちの一つの表れです。地域への啓発活動という堅苦しいですが、私たちが知って欲しい、そして同時にありがとうの気持ちも伝えるいい機会



となっています。次回はどんなイベントになるのでしょうか。益々の広がりを期待して、今から次回が楽しみです。

障害者支援施設 かがみの育成園
石元 規子

Topics

入賞おめでとう!

平成25年10月12日から14日までの3日間、東京都で第13回全国障害者スポーツ大会「スポーツ祭東京2013」が開催されました。

高知県から選手として選抜された方々に、フライングディスク「アキュラシー」という正確さを競う競技に田村大輔さん(福祉工場かがみの)と陸上100m及び200mの短距離走に岩本梨香さん(ライフサポート「大津」)が出場されました。彼らは普段の力を出し切り、田村さんは3位、岩本さん

は100m走で2位、200m走で3位入賞されました。本当におめでとうございます。

入賞は逃しましたが、団体競技の女子バレーボールに松下綾さん(福祉工場かがみの)、男子バスケットボールに市川奈美男さん、一圓俊映さん(共にライフサポート「大津」)が各競技に出場していました。

田村さんは帰高後、「長い間休みをありがとうございました。楽しかったです。本当は来年も出たいけど、後輩にも道を譲ってあげ

んといかん、来年は大会のボランティアで参加したいと思う、県の団長にも伝えた。」と競技を終えた満足感と支えてくれた人への感謝、後輩思いの優しさがあふれんばかりの土産話に花を咲かせてくれました。

岩本さんは、「100m走は県大会で1位だったので、全国でも1位を狙ったけど、2位だったのは悔しかった。200m走はきつかったけど全力でゴールを目指して走りぬけた。思いがけない入賞で、驚きと喜びと一緒にやってきました。」



田村 大輔さん



岩本 梨香さん

と競技の様子を熱く語ってくれました。「参加を応援してくれた勤務先のレストラン『土佐パル』のスタッフにも感謝しています。」職場同僚の理解、協力、応援が彼女の支えになっていることも話されました。

このような体験や多くの方々の関わりを通して、より以上に思いやりの心を育み、人としての器を

大きくしていくのだと彼らの笑顔と自信に溢れた報告を聞き、感動しました。

この体験が今後の仕事や生活に大きく生きてくるのではないかと彼らを見守っていきたく感じるところです。

就労継続A型事業所
福祉工場かがみの
下元 義孝

Topics



幻想的な空間へのお誘い

平成25年12月1日～平成26年1月31日までの期間、かがみの育成園にてイルミネーションの点灯を行っています。

寒い夜空に幻想的な空間を作り出しています。

みなさんお誘い合わせの上、ご来園ください。

住所:香美市土佐山田町楠目 3660
かがみの育成園
電話:0887-53-2174
点灯時間:17時30分～21時30分

ご意見・ご感想

機関紙「わだち 報」に関するご意見・ご感想などございましたら、下記連絡先までお寄せください。

いただいた貴重なご意見を今後の機関紙づくりの参考とさせていただきます。

総合支援センターかがみの
社会福祉法人 高知県知的障害者育成会
TEL 088-855-3717
FAX 088-855-6181